

(別紙4)

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400322
法人名	社会福祉法人 ことぶき福祉会
事業所名	グループホーム ことぶき園
所在地	島根県出雲市塩冶有原町1-50
自己評価作成日	平成22年1月26日
評価結果市町村受理日	平成22年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.fukushi-shimane.or.jp/html/kaigojyouthou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成22年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当園は市街地の交通の便の良い住宅地にあり、通学路に面して建てられており、お年寄りが前庭に出て、日光浴をしたり、洗濯物を干したり庭で食事をしている光景を近所の住民が目にし、気軽に声を掛けたり訪れたりすることが出来る環境になっている。

高齢となり重い障害を負っても、長年連れ添ってきた配偶者や、共に暮らしてきた家族と切り離されることなく生活できるよう支援している。認知症の改善に有効な余裕を持った生活介護に力を入れており、なじみの関係の中でそれぞれの方が生活の主体者となって暮らせるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昭和62年に開設した小規模多機能型老人ホームことぶき園は宅老所の元祖である。運営理念は当初から一貫し「利用者の権利擁護」と「住み慣れた家や地域で暮らし続ける為の支援」を堅持している。

掲げられた理念を追求した管理者、職員の認知症のケアに対する熱意と情熱が感じられる。

ホーム独自の8つのケア方針を設け「最後まで人間らしく笑顔で暮らす」をテーマに職員で積極的に取り組んでいる様子は高く評価できる。

自己評価は職員が集まって1項目ずつ話しあい前回の評価結果も参考にしながら、より質の高いサービスに向かうよう取り組んでいる。

併設の小規模多機能とも建物内の廊下で繋がっており利用者が自由に行き来している。

若い職員が多いが職員の声かけや対応はあくまで利用者のペースに合わせたさりげない穏やかなものであり、利用者主体の尊厳と自己決定を重視したケアがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	どんな障害を抱えても、普通の暮らしが続けられると考え、ケアテーマと8項目のケア方針に基づき、朝・夕の申し送り、職員会議等で話し合いを繰り返し、実践を通して理念を学び合うようにしている。	管理者は認知症のケアに対するホームの役割を認識しており、ホーム独自の8つのケア方針を設け、認知症のケア提供を職員と一緒に進めて行こうとする積極的な姿勢も見受けられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気軽に話ができる雰囲気をつくるよう努力している。近くに公園もあり、親子で散歩に行かれる方に声を掛け、立ち寄り頂いたり、近所の方との立ち話を大切にしている。餅つき、ソーメン流し、運動会など気軽に参加できるよう声掛けをしている。畑の野菜を持って来て頂いたり、日常的な交流ができるよう努めている。	市街地の住宅街にあり、ご近所の方との日常的な交流が出来る。行事や季節の催し物等の関わりだけでなく普段の暮らしの中で近隣の方たちが立ち寄りたりおすそ分けしたりする間柄ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な研修で事業所の取組みを報告したり、学生ボランティアの訪問や、様々な実習生の受入れでグループホームの本質を伝え、それが地域の中で生かされたいと願っている。(今年度は地域民生委員の研修訪問も受けた)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域代表者や行政関係者で定期的に行っており、現状報告と意見を募り、話し合いを積極的に行っている。参加者の事業所への理解が高まりつつあると感じる。報告は職員会議で全員に伝え、サービス向上につなげている。	運営推進会議は2～3ヶ月に1度定期的に開催されており、より良いサービス向上に向け積極的に活用されている。また報告や情報交極的な意見をもらうようにしている。	会議のメンバーから多くの率直な意見を引き出し改善に向けた具体的な取り組みにつなげていくには、参加者を固定せず様々なメンバーから意見をもらうよう働きかける取り組みにも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市と話し合う機会が増え、グループホームとは何かを積極的に話せるようになった。主に運営推進会議で、サービスの取組みを伝えており、助言を得たりしている。	運営推進会議や認定更新の機会を積極的に活用し、市の担当者との積極的な連携を図り、運営や現場の実情等を伝える機会として連携を深めている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアの内容を十分に検討する機会を持ち、該当していないか話し合いを行っている。	職員全員が身体拘束によって利用者を与える身体的精神的苦痛を理解し、拘束のないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあり得ないと考えているが、改めて話し合いをし、虐待を見逃さない意識を高める努力を日々繰り返している。繰り返し原点に戻り、一人ひとりが確認できるよう職員会議で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があると感じた場面などを見落とさないよう、今回自己評価の話し合いをした際にも意識確認をした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をとり説明をして、理解を得ている。重度化や看取りについては、その時々に応じて必要となった時に繰り返し話し合いをして、納得・理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は介護度も高く難しいが、利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、随時家族との話し合いの場を設けており、利用者本位の場をつくるよう努力している。	利用者や家族が運営推進会議に出席しメンバーや外部の人に意見や思いを伝えられる機会を作っている。また利用者や言葉や態度からその思いを察する努力をしている。	苦情等は言い難いものではあるが、意見等も含め事業所を良くする材料として捉え、事業所以外にも相談窓口があることを常に家族等に伝え、またアンケートをするなどし、意見等がいつでも表出できるように積極的な取り組みを期待したい。

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会、職員会議、申し送りなどで意見や提案を言えるように努め、その都度検討を行い業務に反映させている。又、個別に話をする機会を設け、意見・提案が言い易い場も作っている。年度当初には全職員に文章で提案を求めている。	管理者は利用者の状況や日々のサービスの実情を直に知っている現場の職員が意見を言い易い環境を整えている。 実際ヒアリングからも意見や要望が言い易いとの声が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度当初に全職員に何でも言える場(文章にて)を持ち、職場環境を高めるよう努力をしている。各自が向上心を持って業務を遂行できるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々、目の前の利用者が教えて下さると思っている。学んだ事を申し送り、職員会議で共有し、感性を磨くことにも力を入れている。法人の定期的な研修への参加や、事業所外の研修も参加を促し、常に専門職としてのレベル向上も図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	しまね小規模ケア研修会や出雲市グループホーム連絡会の研修会等に参加し交流を図ったり、意見交換等を行っている。参加した職員は、報告レポートと職員会議で報告をすることを続けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ほとんどの方がデイサービスや小規模多機能からの利用なので昔からの顔なじみということもあり、心身の状態把握が出来ており、話を受け止めることの出来る基礎がある。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ほとんどの方がデイサービスや小規模多機能からの利用なので、家族との信頼関係も深め、話し合いを多くしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を聞き、丁寧に対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ立場に立ち、支え合い、共感出来る関係づくりをしている。人生の大先輩として学ぶところも大きく、又職員を気遣ってくださるなど同じ人間同士として共に過ごしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切にしながら機会ある事に職員の思いもきめ細かく伝え、共に支援できるよう家族とよく話を行うようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方やお友達が訪ねてきたり、家族とお墓参りに出かけられるなど、馴染みの人や場を大切にしている。	馴染みの人や場との関係が維持できるよう外出や外泊、来訪や面会の制限は特に設けられていない。 利用者が培ってきた人間関係や社会との関係が継続できる支援がなされている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の心の交流、ふれあいの場をさりげなく作り、支え合う関係作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了した家族も法人の理事やボランティアとして残って関わりを残している方、また近くに来たと顔を出して下さる方等、色々おられて大切にしていきたいと感じる。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言葉や表情からも、その方の気持ちを把握するよう努めている。又、家族からも話を聞くなど、ご本人にとって最良を考えている。	少人数の馴染みの関係を活かして一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向が把握できるように本人の視点に立った働きかけがされており、意思疎通が困難な場合でも家族や関係者から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中やご本人の習慣などから、日々その方らしさを発見し、その方らしい暮らしを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人にとっての生活のリズムを把握し、出来ることを大切に、生き生きとされる場面を多く持つよう努めている。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティングや毎月のケース会議などでその方について、新しい発見やその方の思いなどを深く話し合い、プランに反映させている。	本人や家族の思いや意向を尊重しながら、職員全員で本人にとって現状に合った介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に健康状態、暮らしの様子や気づきを記録している。職員は常に目を通し、実務につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の様子をよく知り、本人の様子に応じて変化するニーズに対応するよう努めている。ご本人にとって必要な事を職員間で検討を行ったり、柔軟に対応が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方が興味をもたれることには積極的に参加できるように市民会館や美術館、図書館、科学館等に出掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医を大切にできるようにしている。往診に来られる医師も、園の様子を理解して頂き、応援してもらおうになっている。看取りも共にする確認を得ている。	利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、家族と協力しながら通院介助を行っている。また主治医とも密に連絡を取り関係を築いている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤しており、直ぐに対応できるようにしている。受診も柔軟に対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	こまめに病院に通い、なるべく早く退院できるように、家族や医師に働きかけている。医療的に落ち着くと帰ってもらうようにしている。カンファレンスにも参加できるよう、家族・病院に協力を得るように心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に確認書を交わし、説明をしている。また、考える時期になると、家族や医師と話し合いをし、それを職員全体で確認している。	本人や家族の思いや意向を踏まえ医師、職員が連携をとり安心して納得した最期が迎えられるように随時意思を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策等のマニュアルを活用し、職員会議で学習を行っている。日頃より応急手当や初期対応の仕方について再々申し送りして話している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を定期的実施している。避難通路の確認や消火器の点検は定期的に行っている。地域の方にも協力を受けられるよう顔なじみになるよう努めている。	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。 加えて、地域の人々の協力が実際に得られるように日頃からなじみの関係作りを築いている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権尊重は繰り返し伝えている。職員一同、日々意識していると考え	一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーの確保を徹底している。調査当日の介助時も、目立たずさりげない声かけや対応がなされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	当然の事であり、小さなことも自己決定する努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度の方が多く、自分から動かない方も多いため、会話の中から希望を察し、支援したり、その方のペースに合わせて活動している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中で用途に応じてメリハリをつけ、おしゃれを楽しまれている。服も一緒に選び、身につけられることが多い。理容室へ出掛ける援助をしているが、重度となり難しい方が多くなった。家族と一緒に行ってもらう工夫している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度の方にも野菜ちぎりなど出来る事をしていただき、一緒に食事作りをしている。雰囲気を楽しみながら、役割發揮していただいたり、盛り付けや食器洗いなども一緒にしている。	メニューを一緒に決めたり、おやつを作ったりして食事を1日の大切な楽しみとして捉えており、様々な高さのテーブルがあるなど利用者が自分の力で食事を楽しむ工夫も見られ、夕食後の間食も準備されている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時々、管理栄養士により栄養チェックしている。問題のある方については水分、食事量なども把握し、必要量が摂れるよう工夫をしている。一人ひとりの嗜好を尊重しているが、バランスが摂れているか見守ることもある。夜間の水分補給も心掛け、脱水の予防も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修会に参加し、研修内容は職員会議で報告がされる。全職員口腔ケアの重要性を認識している。毎食後、個人の状態に応じた口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ほとんどの方が声掛け、介助が必要だが、一人ひとりの排泄パターンを把握し、気持ち良く排泄していただいている。出来る限りトイレで排泄を促す事と、習慣を活かし、オムツからショーツに履き変え、自立に向けた支援も行っている。	利用者の状況に応じて適切な排泄介助が行われている。 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いメニューを取り入れるよう工夫している。水分補給にも心掛け、日中は身体を動かすよう個人に合った方法でマッサージ・体操など行っている。頑固な便秘に対しては主治医の指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	各々に合わせた工夫をしている。生活の様子を伺いながらお誘いをし、気持ち良く入浴して頂いている。	入浴は午前から夜9時までの間での間で希望に応じて入浴を行っている。 拒否のある利用者には言葉かけや対応の工夫によって本人が納得して入れるよう支援している。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調リズムを把握し、大切にしている。気持ち良く休息をとれる様、安心される場も考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出された薬の説明書は一括してファイルして閲覧でき、全職員が理解できるようにしている。処方の変更は連絡ノート等で伝え、間違いのないよう注意を促している。 服薬方法も異なるので、ケース検討会で統一した事を全員に伝えている。症状の変化には直ぐに医師に相談する体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶の先生だった方に抹茶を立ててもらったり、英語の先生だった方には英語を教えてもらったりと、一人ひとりの得意なことを楽しみながら役割発揮していただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じてもらうことができるだけ外出したり、太陽に当たったり、季節毎に楽しめる戸外での行事には職員の体制をとり、全員出掛けるようにしている。 普段から希望を聞き逃さないように注意し、その希望に添えるよう支援している。	ホーム周辺の公園に出かけたり、季節に応じた外出支援も行われており、外出の機会が多い。 本人の状態や希望等に応じて一人ひとりが外出を楽しめるよう家族等の協力も得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には自分で支払ってもらっているが、それも難しくなってきた方がほとんどである。 お金を持つことの大切さを忘れないためにも、支援をしていきたい。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	部屋に電話を置いている方もおられるが、重度の方が多く、自発的には難しい状況である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールはキッチンが一緒になっており、食事を作るところが見えたり、一緒に作ったりするなど家庭のにおいを大切にしている。 又、季節の花を飾ったり、置物など飾りも落ち着ける雰囲気作りをしている。冬はコタツで暖をとるなどゆったり過ごせる空間づくりに心掛けている。	台所はオープンキッチンで、調理の匂いや音がする作りとなっている。テーブルの所々に中庭の季節の花木の花等が生けられ、季節を感じられ、こたつでゆったりと過ごせる作りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小さな空間作りをしたり、テーブル等の位置を工夫したり、その都度臨機応変な対応をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	完全に自分の空間としている方もおられるが、重度の方が多くなり、部屋で一人で過ごす方は少なくなった。ご家族の持ち込まれた馴染みの家具やお花、写真などを通し、自分の部屋だと感じていただける雰囲気となっている。	畳やフローリングの居室が用意されており、入居前からの生活からスムーズに移行できる対応がなされている。カーテンや家具等も利用者の持ち込みにより個々に自分の空間を作り出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	重度の方が多いが、無理のないところで歩行し身体機能の低下を防ぐなど、一人ひとりに合わせた工夫をしている。		